

富川市、自治体初のパイプオルガン設置へ

富川アートセンター内に4576本のパイプ、63ストップのオルガンを設置



▲富川アートセンター大公演場内に設置したパイプオルガン

富川市（市長：チョ・ヨンイク）が4月30日、富川アートセンター大公演場におけるパイプオルガン設置竣工により、地方自治体では初めてパイプオルガンを保有することになった。

製作会社はカナダのカサバン（Casavant Freres）社で、2020年8月から製作に着手し、2022年10月にカナダ現地の仮組立状態を確認した。続いて今年、富川アートセンターの現場にオルガン資材とカナダの職人を投入し、設置・ボイシングなど、28.6億ウォンをかけて約2年8ヶ月で事業を成功裡に完了した。

オルガンのファサードは、立体的な波柄でコンサートホールのインテリアを考慮したデザインが施されている。特に4576本のパイプと63のストップの規模となっており、鍵盤台別に古典から現代に至るまで、各時代のオルガン曲を演奏できるように音色が配置されているため、単独公演だけでなくオーケストラや合唱団との協奏も可能であることから多様な音楽を演奏できる。

キム・ウィビン富川市施設工事課長は、「富川アートセンターの大公演場の音響は、世界レベルに合わせて設計されている。今回のパイプオルガンの設置により、国内最高の公演会場に位置づけられることを期待している」と述べた。